


行政視察内容報告書



令和2年 12月 8日

土佐清水市議会議長
永野 裕夫 様

会派名 議会会派 みらい

(提出者) 氏名 武政 健三 

下記のとおり報告します。

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査	<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動	No.1
参加者	作田 喜秋 浅尾 公厚 山崎 誠一 谷口 佳保 武政 健三			計 5 人
期 日	令和 2 年 11月 11日 ~ 令和 2 年 11月 12日			
【概 要】(年月日・場所・内容)	令和2年11月11日 会社名 : 株式会社 山のくじら舎 住 所 : 高知県安芸市川北甲 1967 番地 *9月会議で「木とともに子どもの成長を見守る事業」として予算化された事業について、安芸市の木製玩具製作所「木のくじら舎」の見学。 萩野社長の案内で実際に玩具の製作作業をしている工場での見学や、あらゆる製材を天日でしっかり乾燥させるための材木置き場などを案内いただく。 森林資源が県土の84%を占める自然豊かな高知のヒノキやスギなどの間伐材を活用した玩具は本当に手触りが良く温かみを感じる。また、かわいい玩具を製作する若い女性スタッフの多さにも驚く。かわいいデザインの玩具やパズル、キーホルダー、箸置き、ブックマーカーなど、あらゆるアイテムの多さとアイデアは、たくさんの若い女性スタッフがいるからこそと考えられる。 木育はとても素晴らしい事なので、豊富な山林がある本市にとっても林業に大きく係るこの取組はビジネスとしても落とし込めるのではないかと感じる。			
	令和2年11月12日 開催場所 : 津野町役場 2階会議室にて *議会のタブレットの導入(ペーパーレスの取組)について、いち早くタブレットを導入した津野町議会の実施経緯と現状を教えていただく。 @タブレット導入のメリット ・既存のPCから資料をアップロードすれば、タブレットで瞬時に全員で情報の共有可能・ ・業務の効率化(印刷、配布、差し替えに係る人件費や時間の削減及び莫大なペーパーの削減) ・資料の省スペース化(過去の資料を確認したいときに莫大な資料でも瞬時に閲覧できる)			

- ・情報収集ツールとなる(ネット検索で他議会等の情報収集)
- ・会議や研修の開催通知等がすぐに連絡できる(今までは手紙にて郵送)

@議員活動でタブレットを活用

- ・広報誌、会議録、各種資料等の様々な資料が入ったタブレットの携帯により地域住民への説明等への活用ができる
- ・災害時の情報収集、連絡手段、写真による現場報告などの活用が可能
- ・災害対策本部のホワイトボードなどを撮影し、随時議員に情報提供が共有できる

@タブレット導入に係るコスト

- ・当初のコスト 1台当たり 53,130円
- ・ランニングコスト 1台当たり 7,535円

@津野町タブレット端末配布状況

- ・議員10台(全議員)、議会事務局2台(局長、書記)
- ・執行部13台(町長、副町長、教育長、各課室の長10名) 総合計25台

@費用対効果の見込み

- ・金額的な試算はできていないが、業務の効率化、コスト削減、管理と活用が見込める
- ・業務の効率化⇒印刷、製本、配布、差し替え業務に係る人件費や時間の削減
- ・コスト削減 ⇒莫大な紙代、インク代、封筒代、切手代
- ・管理と活用 ⇒資料の劇的な省スペース化 ⇒大量の紙媒体の資料がタブレットに保管可能そしてすぐに過去の資料確認が可能

*購入当初は経費が必要ではあるが、長いスパンで考えれば圧倒的なメリットが考えられる。
 広大な畑をクワ一本で耕すことと、トラクターを購入して耕す程の違いがあると考える。
 単年ではなく、例えば5年スパンで試算をして検討する価値あり！！

令和2年11月12日

開催場所：津野町役場 2階会議室にて

*津野町 地域おこし協力隊の活動について

「地域」と「協力隊」そして「協力隊」と「協力隊」が連携した活動を学ぶ。

- ・塾がない町内の中高生対象に協力隊員による学習支援事業で、学力向上だけではなく子供の集まれる場ができたと大好評
- ・県内屈指の茶どころながら耕作放棄された茶畑が増えている中、協力隊員が茶畑再生に奮闘
- ・古民家で協力隊員がやっている「縁側カフェ」で津野茶を満喫
- ・コロナ渦の中、地域から最前線で頑張っている医療従事者の方へ！と、津野町棚田でのキャンドルメッセージの動画を協力隊とOBが作成。感動で涙なしでは見れない内容

*あらゆる成功例を教えてください、特に棚田でのキャンドルメッセージの動画の視聴では、本当に大きな感動をもらい、地域おこし協力隊を受け入れる側が、ここで楽しく住んでもらおうという本気度の強さを持つことが大事だと改めて感じた内容だった。

令和2年11月12日

開催場所：津野町役場 2階会議室 ⇒ 風の里公園(風力発電)

*風の里公園の風力発電の内容説明及び現地での見学

- ・風車メーカー：三菱重工業株式会社 MWT-1000A
- ・発電規模：20,000kW (1,000kW×20基)
- ・タワーの高さ：68m ⇒ (翼の長さ29.5m) ⇒ (最大の高さ 98.7m)
- ・創業開始日：平成18年3月22日 (15年9か月経過 2020年12月現在)

@騒音：建設予定地に最も近い移住地区は1km程離れていて、地区への風車による騒音は30db程度と予想されている。これは環境基準(昼間60db、夜間50db)を大きく下回り、周辺移住者への影響なしとされる。

@地元の同意は？

・周辺全集落及び用地関係者は事前説明会と戸別訪問において、集落としての事業協力と事業用地提供に同意を得た。下記のメリットも期待できる。

- ①事業用地は全て村が購入する予定であり賃借料が期待できる。
- ②固定資産税などの税増収が期待できる。
- ③関連工事の村内発注などのメリット
- ④中四国で最大規模の施設となるため、集客効果が期待できる。

@まとめ ⇒ 北山地域は風況だけでなく道路が既設されており、輸送距離も最短であり地元の全面協力が得られる見込み、このことから立地条件および設備投資効果において年間を通じ採算ベースの風力が得られることを確認し最終決定に至った。

*津野町、風の里公園の風力発電は、しっかりと住民への説明を実行して、騒音のクレームもなく、メリット、デメリットを精査したうえでの町ぐるみでの取組と感じられた。

*しかしながら、先月私は個人的に愛媛県伊方町の「せと風の丘公園」に見学に行った折、風が強い日でもあったが、どの風車も車が走っているような少し恐怖を感じる大きな騒音だった。ちなみに風車の機種は津野町と同じ、三菱重工業株式会社MWT-1000Aで、設置年月日は津野町より2年半古い。この風車の2倍もある200mの風車を竜串の奥の今ノ山に設置することは、騒音もそうだが、道路拡張及び設置面の山を削ることによって私たちの貴重な財産である竜串湾を汚す恐れが大と考える。

市民の皆様へのしっかりとした内容説明をしたうえで、どうすべきかを定めるべきである。